＜小児の救急＞発熱

小児の急に出現する症状として最も多いのは、発熱です。お子さんを育てているご両親の皆さんには、思い当たることがあるでしょう。一番悩むところは「どのタイミングで医療機関を受診するのがよいか？」だと思います。

小児の発熱の原因として、圧倒的に多いのはウイルス感染です。ほとんどは、一般的に「かぜ」と呼ばれている疾患が該当します。「かぜ」であれば、抗生物質等の投薬は必要なく、自然に 2ー3 日で解熱します。しかし、発熱の初めの時点では「かぜ」なのか、医療機関を受診すべきなのかは、区別がつきません。ここで大切なことは、急の発熱にあわてないで、お子さんのからだ全体の様子をよく見ることです。

次のような場合は、医療機関の受診を検討してください。

1)水分を受けつけない、おしっこが半日くらい出ないなどの脱水症状がある。
2)嘔吐や下痢を繰り返し、ぐったりしている。
3)顔色が悪く、あやしても笑わない。
4)呼びかけても、すぐに眠ってしまう。
5)激しく泣き、あやしても泣きやまないでぐずっている。
6)夜も眠らず機嫌が悪い。
7)呼吸の様子がおかしい（胸がペコペコくぼむ、鼻の穴がヒクヒクする）。

ただし、生後 3 ヶ月未満の乳児が 38 度以上の発熱を認めている時は、医療機関への受診を検討してください。生後 3 ヶ月未満の乳児でも、実際は、95%はウイルス感染が原因です。しかし、5%には、細菌性髄膜炎・敗血症・尿路感染症などの重症感染症が、まぎれております。この場合は、早期の入院による治療が必要になります。

次に、発熱が何日以上続いたら、医療機関を受診する方がよいのでしょうか？
この答えですが、私の経験から、発熱が 3 日（72 時間）以上続いたら、小児科医の診察を検討するようにアドバイスしています。3 日よりも長い発熱の場合は、「川崎病」という病気などが原因のこともあります。「川崎病」という病気は、入院して治療をしないと、心臓の冠動脈という大事な血管に動脈瘤という血管の「こぶ」ができてしまうことがある、こわい病気です。「川崎病」の診断のためには、小児科医の診察が必要になります。

小児の発熱は、頻回に経験することです。あわてないで、お子さんの様子を観察するよう心がけてください。

【中央検査部長兼小児科診療部長　針谷　晃】